様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６８３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３８０２５５

研究課題名（和文）イギリス限界革命期のミクロ経済学の形成：不均衡論の視点の現代的意義

研究課題名（英文）The history of the micro economics in the marginal revolution period of Britain: The modern implication of how the disequilibrium theory is preceded by the equilibrium theory.

研究代表者
中野　聡子（NAKANO, Satoko）

明治学院大学・経済学部・教授

研究者番号：２０２４５６２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イギリスで1870年から1890年にかけ、不均衡論的分の析視点が均衡論に先行することを明らかにしようとする。研究成果を総括すると、1.不均衡分析と均衡分析の分水嶺が、1870から80年代にかけてのジェヴォンズ、エッジワース、前期マーシャルと1890年以降の後期マーシャルにある。2.　不均衡論の視点は、収穫逓増の生産構造を背景に、包絡線構造及びパラメトリック経済などの現代の分析ツールの起源と密接に関連していた。　3.　2の分析ツールに付随して、ゲーム理論的視点や制度設計の視点が萌芽的に展開され始めていた。以上により現代のミクロ経済学の形成過程の経済学史的理解が大幅に修正される。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify that in the Britain from 1870 to 1890, the perspective of disequilibrium theory is preceded by equilibrium theory. A summary of the research results is as follows: 1. The divide of disequilibrium analysis and equilibrium analysis is between Jevons, Edgeworth, early Marshall from 1870 to 1980 and late Marshall since 1890. 2. The disequilibrium point of view was closely related to the origin of contemporary analytical tools such as envelope structures and the parametric economy with increasing returns to scale. 3. Along with the analytical tools of 2, the perspective of game theoretic view and the mechanism design started to develop. Thus, the historical understanding of the process of modern microeconomics formation is greatly revised.

研究分野：経済学史

キーワード：限界革命　ミクロ経済学　均衡理論　不均衡理論　ジェヴォンズ　エッジワース　マーシャル

１．研究開始当初の背景

(1)ジェヴォンズ、エッジワースの分析は、不均衡過程特有の分析や問題設定を通じて、現代経済学に重要な成果を、たとえば、貨幣経済の変動、ゲーム理論的視点、寡占市場の分析、収穫逓増の定式化、統計分析の先駆、確率論の導入等をもたらした。これらの成果は、目立たない形で波及し、均衡理論を軸とする現代経済学の陰でその重要性があまり理解されてこなかった。

(2)本研究の土台は、根岸隆らの経済学史研究に見出される。Negishi (1986) によって、限界革命期直前に不均衡理論の存在が明らかにされた。その後、この解釈をめぐって、論争が巻き起こった。Mirowski (1999), Ekelund (1989,1997), White (1994, 2004), Nakano (1989、2009)などである。しかし、経済学史上、不均衡理論をどう位置付けるかについて未だ決定打となる研究がなされていなかった。

２．研究の目的

(1)均衡理論と不均衡理論の展開過程を歴史的に精査し、市場の制度やルールの経済分析に対してどのような意義があるかを明らかにすること。均衡理論は、需給均衡のメカニカルな諸力に経済メカニズムを見出すのに対して、不均衡理論は、市場を構成する具体的な制度的仕組みのなかで働く個別の取引関係に経済メカニズムを見出す。したがって、後者において主体間の個別的契約関係は必ずしも市場均衡を実現せず、市場の制度的仕組みに応じた不決定性や不均衡過程の構造が問題となる。後者には、ルールや規範、法や正義、制度や慣習を分析に取り込む余地がある。

(2)市場の制度やルールの経済分析の近年の進展に経済学史の観点から理解を促進すること。市場経済の組織や制度の役割、情報の偏在と不確実性の存在、経済主体間の戦略的相互依存など、情報の経済学やゲーム理論を通じた研究の進展により、市場経済の基礎理論は従来の価格理論体系の範囲を超え、多様な手法が見出されるようになった。このような近年の進展は、部分的な契機として、限界革命期の萌芽に由来することを指摘し、ジェヴォンズ、エッジワースの不均衡過程の視点の波及という形で、現代の経済学の理解を促進することが目的である。

３．研究の方法

(1)資料の精査：エッジワースとマーシャルを中心に（周辺論者も広範に含む）書簡、著作、研究文献を精査。特に、エッジワースの伝記的研究 Barbé(2010)、マーシャル書簡集 Whitaker(1996)、The special Collections section of the London School of Economics(LSE) Library の現地調査、ワルラス書簡集(Jaffe)、エッジワースの論文、著作目録の再検討と整理を行った。

(2)資料精査を通じて問題の明確化と分析：不均衡の観点と均衡理論の観点がどのように議論されているか関連資料を精査し、問題の文脈を一つずつ掘り起こした。その問題に応じて、検討する資料の内容と範囲を再検討し、その上で内容を解釈、分析した。具体的には、次のような問題に応じた検討が行われた。1. イギリスの限界革命の不均衡理論の視点と市場均衡理論の視点の分水嶺について。2. 需要サイドや供給サイドの背後で議論された包絡線構造について。3.均衡論と不均衡論の接点としての、規模のパラメトリック経済の議論について。

４．研究成果

(1)イギリスの限界革命の不均衡理論の視点が、ジェヴォンズに限定されるの

か、エッジワースにも共有されているのかを検討し、市場均衡理論との分水嶺を見極める研究を行った。その結果、以下の発見があり、ジェヴォンズ、エッジワース、および前期マーシャルが不均衡理論に属し、後期マーシャルが均衡の側に入ることがわかった。エッジワースのマーシャルの『経済学原理』の初版に対する書評２本、第２版に対する書評の内容が、大きく異なること。そして、不均衡理論と均衡理論への両者の考え方の相違として評価できること。これまで、エッジワースが、マーシャルの部分均衡に対してどのような立場にあるかが不明であったが、明確になった。

(2)エッジワースとマーシャルの対立の論点が明確となる資料の発見があった。オーストリアのアウシュピッツとリーベン(1889)の著書に対するエッジワースの書評が、エッジワースの経済学史評価の観点からの文献表から抜け落ちていたことを見出した。

Edgeworth(1889) Auspitz& Lieben *Untersuchungenüber die Theorie des Preises Nature*, 11July 1889, pp.242-244.

Edgeworth(1889) Auspitz& Lieben *Untersuchungen über die Theorie des Preises Academy*, 899, 27July 1889, pp.53-54

(3)エッジワースとマーシャルの対立の論点の内容が、包絡線の議論を端緒 としていることが、明らかとなった。通常の包絡線定理に関する経済学史的理解(1930 年代にヴァイナーとハロッドを起点)と異 なり、包絡線の問題は、1890 年を起点にエッジワース的理解とマーシャル的理解の対立のベースになっているということが見いだされた。この視点から、書簡、論文、覚書等の資料を精査することで、本研究のターゲットとなっている結論を論証する包括的な分析が可能になることがわかった。

(4)不均衡過程特有の分析や問題設定が、現代経済学に与えた影響を明確にするために、内生的経済成長理論に与えた影響を検討した。「規模のパラメトリック経済」(parametric economies of scale)の定式化の経済学史的背景を明らかにした。第一に、「規模のパラメトリック経済」の定式化は、カニンガム(Cunyghame(1904)の著書に対するエッジワースの書 評 論 文(Edgeworth(1904))の脚注で展開され、本質的な部分はエッジワースの議論であることがわかった。第二に、エッジワースの主旨は、完全競争をその特殊ケースとするより一般的な市場、すなわち価格だけでなく、他の主体の行動を互いに考慮する相互依存の発生する市場をどう分析するかについてのエッジワースの方法的見解の表明にあることが判明した。この研究成果により、ゲーム的状況も含む市場の分析の視点が、需給均衡の数理化に先行する形で提起された限界革命期の状況が明らかとなった。

以上４点の成果を通じて、研究開始当初の背景では、ソーントンに特異なものと局限され、しかもその存在が不明確であった不均衡理論の視点が、明確に 19 世紀後半の経済学史の土台に存在したことが示されつつある。現代につながる経済学の歴史の見方を大幅に修正することに貢献すると考えられ、今後も研究を続行する予定である。

＜引用文献＞

Barebé, L. (2010) *Fransis Ysidro Edgeworth, A Portrait with Family and Friends*, translated by Mary C. Black, Edward Elgar.

Ekelund, R.B. JR., and S. Thommensen (1989) ’Disequilibrium theory and Thonton’s assault on the laws of supply and demand’, *History of Political Economy*, 21.4:567–592.

Ekelund, R.B. JR. (1997) 'W. T. Thornton: Savant, idiot, or idiot-savant?' *Journal of the History of Economic Thought*, 19:1-23.
中野聡子 (1989)「**ジェヴォンズの交換理論の再評価　Ⅰ　ーワルラス均衡との関係—**」『**三田学会誌**』82 **巻２号**　145－164 **頁**
(2009) "Jevons's market view through the dynamic trajectories of bilateral exchanges: a radical vision without the demand function" in *History of Economic Theory*, Routledge Studies in the History of Economics. P.169-201.
Negishi, Takashi (1986) "Thornton's Criticism of Equilibrium Theory and Mill," *History of Political Economy*, Vol.18, No.4, pp.567–77.
White, Michael V. (1994) "That God-Forgotten Thornton: Exorcising Higgling after On Labour," in *Higgling: Transactors and Their Markets in the History of Economics*, edited by N. de Marchi and M. Morgan. Durham, Duke University Press.
(2004) "A Grin without a Cat: W.S. Jevons' Elusive Equilibrium," in *History and Political Economy. Essays in Honor of P.D. Groenewegen*, edited by T. Aspromourgos and J. Lodewijiks. London and New York, Routledge.
Mirowski, P. (1999) 'Introduction' to *The Economic Writings of William Thornton*, 3 volumes, edited by Philip Mirowski and Steven Tradewell, Pockering and Chatto, London, Vol.1., pp.1-70.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　3 件）

①中野聡子(2013)「包絡線定理と費用曲線の経済学史：ヴァイナー、ハロッドの展開とエッジワース」明治学院産業経済研究所研究所年報 29 号　p.35-52．査読なし

②中野聡子(2015)「ジェヴァオンズ、エッジワースの研究計画とマーシャルの研究計画;近代経済学の展開の深遠な断層」『経済研究』（明治学院大学）第 150 号 p.1-11．査読なし

③中野聡子（2017）「規模のパラメトリック経済の定式化の学説史上の意味:F.Y.エッジワースがH.カニンガム（1904）への書評で意図したこと」『経済研究』（明治学院大学）第 154 号 印刷中 査読なし

〔学会発表〕（計　2 件）

①Satoko Nakano, "Edgeworth's Appraisal of Marshall's Pricipoles of Economics" History of Economics Society Annual Meeting, British Columbia University, Vancouver (Canada) 2013/6/21.

②中野聡子「ジェヴォンズ、エッジワースの研究計画とマーシャルの研究計画の相違：近代経済学の展開の深遠な断層」経済学史学会大会、滋賀大学、2015/5/31

６．研究組織

(1)研究代表者

中野聡子（NAKANO,Satoko）
明治学院大学・経済学部・教授
研究者番号：20245624